

研究協力をお願い

昭和医科大学歯科病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

下顎骨形成術 Obwegesser 原法と Obwegesser-Dal Pont 法による術後安定性の比較

1. 研究の対象および研究対象期間

2013年4月1日から2025年12月31日に昭和医科大学歯科病院口腔外科で顎変形症の診断で顎骨形成術を受けた患者さん。

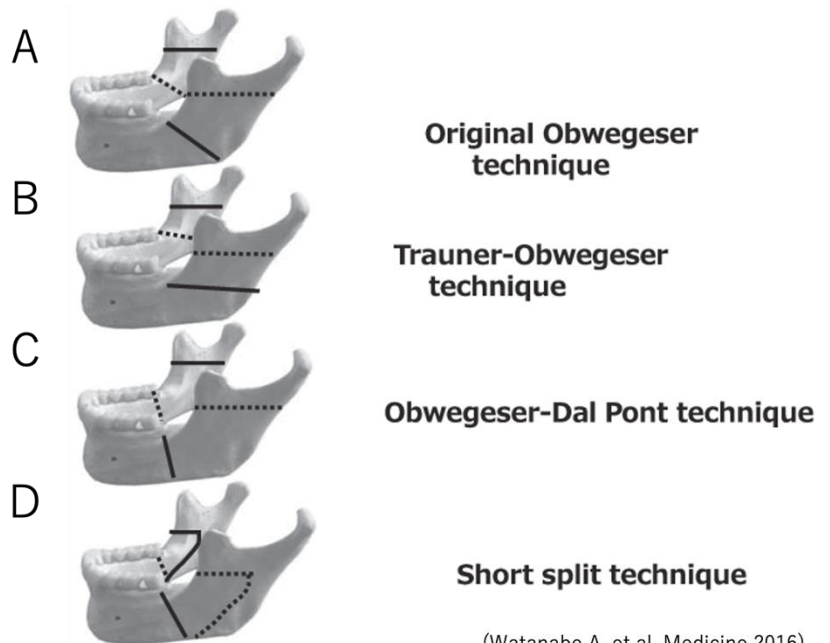
2. 研究目的・方法

【目的】 顎変形症患者さんに対する手術方法として、下顎骨においては下顎骨矢状分割術 (SSRO; sagittal split ramus osteotomy) は最も一般的に行われている手術法です。歯が並んでいる部分（骨体部）と顎関節がついている部分（下顎枝）とを手術で分断し、骨体部を理想的な位置へ移動させたのちに、骨体部と下顎枝を固定する方法です。SSROは頬側の骨切り線により、大きく Obwegesser 原法（図A）とその変法である Obwegesser-Dal Pont 法が主流で行われています（図C）。

分割後に骨片の移動後は、接触面積が大きくなる分だけ Obwegesser-Dal Pont 法がより骨片間の干渉が大きいとされています。一方で、骨片間の固定は操作性の面から Obwegesser-Dal Pont 法が有利とされています。しかしながら、これら両者を明確に比較した検討は行われておりません。

そこで、本研究では両者を比較し、どちらの方法がより安定した結果を得られるのかを明らかにすることとしました。

【方法】 顎変形症に対して下顎骨形成術を行った患者さんの、術前、術後1か月、保定時の頭部 X 線規格写真（セファログラム）および、術前、術後1か月、術後3か月、術後6か月の



(Watanabe A, et al. Medicine 2016)

CT画像を用いて、下顎骨の安定性の評価を行い、2つの術式間で比較検討を行います。また、顎関節の位置変化を評価します。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2027年3月31日まで。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

診療録：性別、手術時年齢、診断、手術方法、顎関節症状の有無・種類・過去の治療経験

頭部X線規格写真（正面・側面）。

CT画像。

【頭部X線規格写真】

- 1) 正面：Cgを通りLo-Lo'を結んだ線と直行する線を顔面正中線とする。左右の顎関節頭の外側端(LCd)と下顎角(Go)を結ぶ線を下顎枝外側線とし、これとLo-Lo'のなす角度(①、②)、角前切痕と顔面正中線までの距離(③、④)、オトガイ中心(Me)と顔面正中線までの距離(⑤)。
- 2) 側方：SNB(⑥)、SNPog(⑦)、Occlusal plane angle(⑧)、Mandibular plane angle(⑨)、Ramus plane angle(⑩)。

【CT画像】

- 1) 顎関節頭の回転：FH平面に平行な面（水平面）で、左右の棘孔(FS, FS')を結ぶ線と、顎関節頭の長軸のなす角度(a)。
- 2) 顎関節頭の位置：1)の平面上でFS-FS'と直行する面（矢状面）で顎関節窩の最深部(①)と顎関節頭の最頭側点(②)をそれぞれ通るFH平面と水平な線を③、④とした際の垂直距離(b)。

5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

6. 研究組織

研究責任者	昭和医科大学歯学部顎顔面口腔外科	大場誠悟
研究分担者	昭和医科大学歯学部顎顔矯正学講座	中納浩久
研究分担者	昭和医科大学歯学部歯科矯正学講座	芳賀秀郷
研究分担者	昭和医科大学歯学部顎顔面口腔外科	佐藤 仁
研究分担者	昭和医科大学歯学部顎顔面口腔外科	田中元博
研究分担者	昭和医科大学歯学部歯科矯正科	北はるな
研究分担者	昭和医科大学歯学部顎顔面口腔外科	堅田凌悟
研究分担者	昭和医科大学歯学部歯科矯正科	石田美穂
研究分担者	昭和医科大学歯学部歯科矯正科	梅原郷人
研究分担者	昭和医科大学歯学部歯科矯正科	和田友里

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学歯学部顎顔面口腔外科 氏名：大場 誠悟

住所：大田区北千束 2-1-1 電話番号：070-4506-3708